

平成 27 年度上期建築物防災週間関連行事

建築物防災講演会

講演記録

テーマ：災害バーチャル体験と災害時の行動を学ぶ
～大阪市立阿倍野防災センターでの災害体験学習会～

日時：平成 27 年 9 月 10 日（木）

午前の部：10時00分～11時30分

午後の部：14時00分～15時30分

場所：大阪市立阿倍野防災センター

主催：一般財団法人 大阪建築防災センター

ごあいさつ

大阪建築防災センターでは、平成27年度上期の建築防災週間での関連事業として、去る9月10日に防災講演会を開催しました。

この講演会は、毎年度9月と3月の2回、防災意識の向上と建築物の防災対策を促進するために、当財団の公益目的事業として長年に渡り実施しております。この間、地震、火災、風水害など建築物を取り巻く様々な災害を取り上げ、多くの専門家の皆様から貴重なご講演をいただきました。

高い確率で発生が予測されている南海トラフ巨大地震、さらに上町断層による都市直下型地震も懸念され、いつどこで発生するか分からない災害を避けることができないのが現実です。しかし、災害を避けることは難しくても、災害による被害を最小限にすることはできるのではないのでしょうか。

そこで、今回は、従来の講師をお招きしての講演会ではなく、大阪市立阿倍野防災センターの施設を利用して、防災に対する知識と技術を学んでいただく体験学習会を行いました。

今回の体験内容をより多くの方々にお伝えしようとするこのような冊子にまとめました。併せて皆様方に、阿倍野防災センターを知っていただき、今後の防災への取り組みとして、利用していただければと思っております。

当財団としましては、今後とも建築や市街地の防災対策に貢献できるように一層の尽力を傾けてまいりますので、引き続き皆様のご指導、ご協力をよろしくお願い致します。

平成27年11月

一般財団法人 大阪建築防災センター

理事長 吉田敏昭

平成 27 年度上期建築物防災週間関連行事 建築物防災講演会

テーマ：災害バーチャル体験と災害時の行動を学ぶ
～大阪市立阿倍野防災センターでの災害体験学習会～



平成 27 年度上期建築物防災講演会は、従来の講師をお招きしての講演会ではなく、大阪市立阿倍野防災センターでの災害体験学習会を開催致しました。

当日は、心配していた台風の影響もなく、164 名の方に、午前の部と午後の部に分けてご参加頂きました。

開催の挨拶後、阿倍野防災センターの係員の誘導により災害体験コースを 3 班に分かれプログラムに沿って体験していきます。



① バーチャル地震体験コーナー

①バーチャル地震体験コーナーは、災害体験の導入部です。突如、大阪市内で直下型の巨大地震が発生したという想定で、迫力ある大画面映像と振動装置によって、大地震発生状況をリアルに体感できます。残念ながら、この日は、参加人数が多かったため振動装置は作動しませんでした。大画面映像だけでも十分実感できました。



② 火災発生防止コーナー

②火災発生防止コーナーでは、火災による二次災害が起こる原因と防止策です。

地震による火災の原因の多くは、暖房器具の転倒と通電火災によるものです。

通電火災は、停電により電源が消えた電化製品が、電力復旧に伴い再稼働して可燃物に引火することが原因です。避難する際は、ガスの元栓を閉め、電化製品のプラグを抜き、ブレーカーを落とすことで、火災を防ぐことができます。



③ 煙 中 コ ー ナ ー



建物が倒壊した町



④ 初期消火コーナー



⑤ 119 番通報コーナー

③煙中コーナーは、火災発生時の煙を再現した部屋を避難していく体験です。

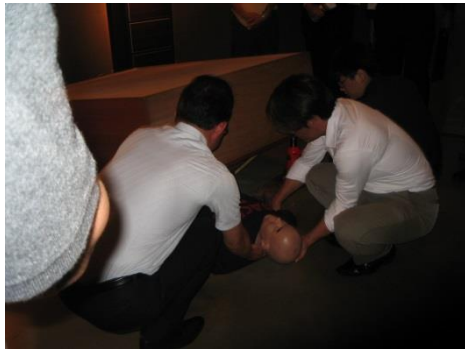
扉を開けた向こうは、煙が充満しており、視界の悪い廊下を、姿勢を低くしながら手探りで避難していく煙中コーナーは、本物さながらです。煙によって視界を遮られる怖さを十分に体感できます。

煙中コーナーから抜け出すと、そこは建物が倒壊した町。本物の建材を使い、地震直後をリアルに再現された倒壊した街並み、パチパチと火が燃える音、助けを呼ぶ声など、実際に地震直後に遭遇したのかと一瞬錯覚するほどです。

④初期消火コーナーでは、食堂の厨房から発生した火の元を、消火器を使って消火する体験です。勢いよく燃えている炎を映し出しているモニターに向かって、手早い動作で、①消火器の安全ピンを抜き、②ホースノズルを火元に向け、③レバーを強く握ります。動作は、いたって簡単ですが、消火位置（火元）がずれていると、モニターの炎がなかなか消えてくれません。実際の消火時間は、15秒程なので、あわてず落ち着いて火元を狙って消火することが大切だとわかります。

⑤119番通報コーナーは、公衆電話や携帯電話から119番に通報する体験です。

火事の場合と救急の場合の2つの想定で、モニター画面に表示される手順に沿って受け答えをしていきます。あわてて一方的に話していると、正確に伝わらず時間がかかります。119番通報は、係員の質問にあわてずあせらず落ち着いて、はっきり正確に答えることが最も効率の良い通報となるのが、体験を通してわかってきます。



⑥ 救出コーナー



⑦ 応急救護コーナー



⑧ 危険箇所の察知



メディアデッキ

倒壊した家の中に入っていくと、人が家具の下敷きになっています。⑥救出コーナーでは、家具の下敷きになった人を、ジャッキを使って救出します。ジャッキを使えば、女性でも簡単に家具を持ち上げられることができます。

また、下敷きになった人（要救助者）に対して、「大丈夫ですよ」「がんばって下さい」と、常に声をかけて呼びかけることが大切なことだと教わりました。

病院の建物の中は、⑦応急救護コーナーです。止血や骨折の固定など、身のまわりにあるもので応急救護する方法を教えてくださいました。

止血する時に注意することは、感染予防のため直接血液に手をふれないこと。ハンカチなどを出血箇所にあて、ネクタイで止血します。骨折の固定では、ダンボールで添え木し手ぬぐいで固定しました。添え木は、雑誌でも代用できます。そして三角巾の代用で、レジ袋を使って簡易的な三角巾をつくり、腕を吊って支えます。参加者の皆さんからも、感嘆の声があがるほど、役立つ内容でした。

崩れた建物の横を歩きながら、⑧危険箇所の察知を教えてくださいました。落ちかけた看板、むき出しのガス管、切れた電線などの危険性、また、音やにおいでも判断し、危険と感じたら近づかないのが被害をさける一番の対策になります。

倒壊した街並みを見渡すことが出来る2階のメディアデッキでは、先程、体験した煙中コーナーを避難している様子をモニターで見ることができます。自分では、低い姿勢で歩いているようでも、モニターに映る姿は、低い姿勢になれていないことが確認できます。自分が避難している姿を、モニターで客観的に見ることによって、何がいけないのか、どうすればいいのか、明確にわかってくるので、とても良かったです。



⑨ 震度7体験コーナー



非常持出品展示ブース



鎌田壽彦センター長



防災グッズ販売コーナー

起震装置を用いた⑨震度7地震体験コーナーでは、平成7年に発生した阪神・淡路大震災と、今後、発生するであろうと言われている南海地震を体験しました。

手すりをしっかりと握らなければ、転んでしまいそうになる程の大きな揺れ。南海地震に至っては、地震の継続時間が1分以上と長く、いつ終わるのかわからない不安と怖さがありました。揺れを体験した後、震度7の揺れの大きさを実感できていなかった自分に気づかされました。

体験コーナーの他にも、非常持出品などの展示物やマルチメディア学習コーナーでの、パソコンやグラフィックパネルを使って、防災に関する様々な情報を調べることができます。

全ての体験が終わり、最後に、阿倍野防災センター長、鎌田壽彦氏にご挨拶頂きました。お話の中で、各地で災害が続き、防災意識の高まりによる影響で、阿倍野防災センターの来館者数が増えているそうです。当日も防災センターの参加者以外にも、大勢の団体利用者が体験をされていました。

阿倍野防災センターは、自分を災害現場の中に身を置くことができる貴重な施設です。一連の流れの中で、地震による被害をイメージし、疑似体験することで、災害に対する危機意識を持つことができますと思いますので、この体験学習会で、もっと沢山の方に、阿倍野防災センターを知ってもらい、利用していただけたら、今後の防災・減災につながっていくと思います。

体験学習会後、早速、参加者の方が防災グッズを購入されていました。防災の一步です。

～好きやねんこの街この家！守ろう安全 築こう安心～

発行 一般財団法人 大阪建築防災センター

〒540-0012 大阪府中央区谷町3丁目1番17号

TEL.06-6943-7253 FAX.06-6943-6740

<http://www.okbc.or.jp>